

(禁無断掲載)

# 文教速報

平成二十三年九月七日(水曜日)第七六二九号

＝隔日刊 月・水・金＝  
(但し祭日休刊)  
月額6,825円(税込)  
◎官庁通信社

## 官庁通信社

〒101-0041  
東京都千代田区  
神田須田町2-13-14  
総務部  
(03)3251-5751  
FAX 5753  
編集部  
(03)3251-5755  
FAX 5753  
E-mail:bunkyo@  
kancho-t.com

### 「信頼関係の中で職務を推進」

中川正春第12代文科大臣が就任挨拶

- ◎ 科技術術審基本計画推進委が初会合
- ◎ 島根大、医師用マタニティ白衣を開発
- ◎ 岡山大、全日本学生フォーミュラ大会に参加
- ◎ 鳴門教大予防教育センターが小中学校教員対象に研修会
- ◎ 大阪教大と奈良教大が図書館連携事業
- ◎ ルース駐日米国大使が和歌山大を訪問
- ◎ 秋田大「子ども見学デー」が今年も大好評
- ◎ 岩手大で「岩手大運動会」、アスリートが講演や技術指導
- ◎ 群馬大の体験教室に多数の子供たち
- ◎ 小中英語教育で講演会シンポジウムⅡ愛教大
- ◎ 山口大附属山口中学校生徒が国際ピアノコンペで最年少入賞
- ◎ 香川大婦国留学生ネットワーク中国支部が総会
- ◎ 京大、東日本大震災の被災者救援義援金を贈呈
- ◎ 博物館学集中コース公開フォーラムを開催Ⅱ民博
- ◎ 西日本地域高専技術職員研修(物質系)を開催Ⅱ和歌山高専
- ◎ 大島商船高専准教授に国立高専教員顕彰
- ◎ 西洋美、防災訓練を実施
- ◎ 科技術術戦略推進費の新規採択プロジェクト
- ◎ Ⅱ文科省、ゲノムコホートを除く12件公表Ⅱ
- ◎ Ⅱ9月2日日本省人事Ⅱ

※ 中川文科大臣の就任で秘書官ら発令

◎ おおすみくん家 海浜活動研修会③

〔通知〕公共工事の入札及び契約適正化の推進について

※ 鳥取大が鳥取砂丘でボランティア除草作業

鳥取大学では八月三十一日、教職員や学生からボランティアを募り、日没までの約一時間、鳥取砂丘で除草を行った。



鳥取砂丘ではここ数年、雑草の繁茂が原因とみられる砂の移動の減少が著しく、風紋や砂簾といった美しい模様が見られにくくなってき

た。そこで、本来の「砂の動く生きた砂丘」の復活と保全を目指し、地域が一体となって除草ボランティア活動を実施している。

鳥取大ではこうした動きに賛同し、鳥取砂丘景観保全協議会主催の除草事業に、平成十六年度から毎年参画している。



清掃を行う教職員と学生

この日は約百名が集まり、日本海を一望する壮大な砂丘を前に、能勢学長が「仕事を忘れて、ピクニック気分で楽しく作業しましょう」と挨拶。保全協議会のスタッフの誘導によって手作業で除草を行い、心地よい汗を流した。

一五

一四

一三

一二

一一

一〇

〇九

〇八

〇七

〇六

〇五

〇四

〇三

に關わるような議論や、新たな視点に立った推進方策につ

### 島根大、医師用マタニティ白衣を開発

島根大学医学部附属病院では、医師用マタニティ白衣が完成し、このほど記者発表を行った(平成二十三年五月二十日特許出願済)。今後は、この白衣を使用して学内でモニター調査を行い、さらに改良を重ねて実用化を目指す。

島根大病院ワークライフバランス支援室では、「妊娠中の女性医師が快適に着ることが出来る白衣がほしい」という職員からの要望をきっかけに調査を実施。看護師のマタニティ用ユニフォームは市販されているが、医師用コートタイプのマタニティ用白衣がないことが判明した。

従来、女性医師は、妊娠後期になるとボタンを外したり、男性用の大きな白衣を着ていたことから、「なければ自分たちで作ろう」と、地元の白衣メーカーとともに医師用マタニティ白衣の共同研究・開発に着手した。島根大では、研修医や医員など若手医師における女性の割合は半数近くに達する。地域における医師不足が大きな社会問題となる中、島根大の女性医師にも、妊娠中や出産後もキャリアを継続することが社会的に要望されている。

妊娠中でも快適に着用できる白衣の存在は、女性医師のストレスを緩和し、仕事へのモチベーションを保ちながら産休前まではつらつと勤務してもらうためのサポートツールの一つになることが期待される。

さらに、コートタイプのマタニティ白衣は、医師だけでなく、医療技術職・薬剤師などのメデイカルスタッフはもちろんのこと、実験系の研究職や技術職など広範囲の職種で利用可能。白衣の開発は、女性医師だけでなく、理工農分野の若手女性研究職・技術職への支援という観点からも社会的に大きな意義を持つ。

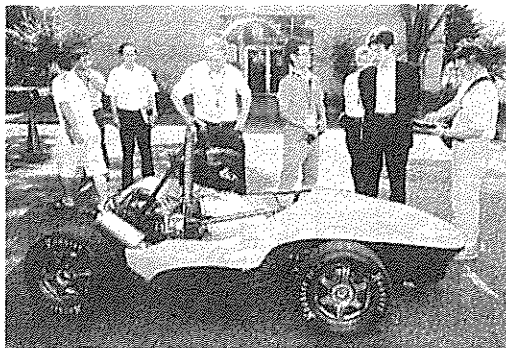
記者発表当日は、報道機関十社が出席するなど、メディア側の関心の高さがうかがえた。

### 岡山大、全日本学生フォーミュラ大会に参加

岡山大学の学生で構成する「岡山大学フォーミュラプロジェクト」は、九月五日から九日に静岡県小笠山総合運動公園(エコパ)で開催されるレーシングカーの性能を競う「全日本学生フォーミュラ大会」に参加する。八月三十一日には森田 潔学長出席のもと、工学部で大会参加車両によるデモ走行を行った。

同プロジェクトは、二〇〇四年に大会出場を目指して結成。今年度は工学部の学生十三人によるチームで、レーシングカーの設計・製作やチームのマネジメント、スポンサーとの交渉まで、全て学生だけで運営している。

森田学長(右から2人目)に参加車両の説明を行うプロジェクトメンバー



試着披露を行う病院職員



工学部で行われたデモ走行

全日本学生フォーミュラ大会への参加は七回目。今年のマシンは、昨年に引き続き、加速・旋回性能の向上をコンセプトに、エンジンやサスペンションの改良を図っており、最高時速は約二〇〇km/hに達する。プロジェクトリーダーの工学部四年板野光司さんは「今年度は絶対に完走を果たし、全国十五位を目指す」と意気込みを語っていた。